

## 令和4年度第1回鎌倉市青少年問題協議会 議事概要

【日 時】 令和4年5月24日（火）10時30分から11時30分

【場 所】 鎌倉商工会議所 301 会議室

【出席者】 敬称略

(1) 委員 11人

別紙名簿のとおり。

(2) こどもみらい部

藤林聖治（こどもみらい部長）

(3) 事務局 5人

小林青少年課長、田中担当係長、下釜職員、山下職員、渡邊職員

【資 料】

1－(1) 青少年問題協議会委員名簿

1－(2) 子ども・若者育成プラン(改訂版)

1－(3) 子ども・若者育成プランの令和3年度推進状況

1－(4) 令和4年成人のつどいアンケート調査の集計結果

1－(5) 中高生アンケート調査（案）

【議 題】

(1) 子ども・若者育成プランの令和3年度推進状況について

(2) 青少年の居場所づくりについて

①令和4年成人のつどいアンケート調査の集計結果について

②令和4年度中高生アンケート調査の実施について

(3) 今年度のスケジュールについて

概要については以下のとおり。

(1) 事務局挨拶・自己紹介

・事務局及びこどもみらい部長挨拶ののち、各委員が自己紹介を行った。

(2) 会長・副会長の選出について

・会長は、沖縄大学名誉教授の加藤委員を選出した。

・副会長は、市立中学校代表・市立深沢中学校長の河合委員を選出した。

(3) 子ども・若者育成プランの令和3年度推進状況について

・事務局から、令和4年4月から5月に実施した、子ども・若者育成プランの令和3年度推進状況の主に青少年課の取り組み事業について説明を行った。

(4) 青少年の居場所づくりについて

・事務局から、青少年の居場所づくりに係る、令和4年成人のつどいで実施したアンケート調査の集計結果の説明及び、令和4年度実施予定の中高校生アンケート調査の実施について説明を行った。

(5) 今年度のスケジュールについて

・事務局から、令和4年度青少年問題協議会のおおまかなスケジュールについて説明を行った。

各委員からのご意見、ご提案は次のとおり。

加藤会長：青少年課実施事業の推進状況についてご意見いただきたい。

下山委員：ジュニアリーダーズクラブは周知機会が少なかったこともそうだが、中高生は部活や受験等で何かと忙しい。大学生も時間があるかと思いきや、実習等入ってくるため忙しく、なかなか会員が集まることができないことも要因。また、指導者が少ないということもある。

河合委員：中学生は忙しい。部活動に入りたい生徒も多い。部活動も全入制から希望制に変わりつつあるが、入部希望の生徒も多く、塾に通う生徒も多い。

田中委員：深沢高校は、ボランティア活動は3年間の中で組んでいくが、ようやく少しできるようになってきたところ。ボランティア委員会というものがあり、生徒に希望を募っているし、かまくらっ子に参加できればいいと思う。

林委員：大学生は通う地域によることが多い。気持ちはあるが、地元になるとなかなか難しい。鎌倉在学の学生であれば紹介はできる。募集の形はどのようにしているのか。

下山委員：市では募集はしておらず、広報紙等で周知・募集している。話は変わるが、中学校にうまく溶け込めない子がジュニアに加入している子もいた。学校では馴染めないが、ジュニアではうまくリーダーができる。進学の際にボランティアの内容として書き込めれば、加入者が増えるきっかけにはなるのかと思う。

東樹委員：自分自身が、インターンシップ等コーディネートをしていたことがある。深沢高校でもボランティアの講演したことがある。支援センターでも中高生、若者向けのコーディネートしているため、そこと連携できるといいかも。

石井委員：鎌倉市でも各学校にスクールカウンセラーがいると思うが、カウンセラーが市にどういった青少年のための社会資源があるか知ることができるといいと思う。先程下山委員からもあったが、学校に居場所がなくても、塾とはまた違う関りがあるといいと思う。

加藤会長：募集の公募の仕方や、社会資源について、膨らませていきたい。

～令和4年成人のつどいアンケート調査の集計結果について報告～

加藤会長：若者の居場所について、警察の目線からみていかがか。

甲斐委員：外の世界では、親や学校に否定されたり、怒られてばかりで居場所が無いが、ネットでは援助交際のようなことをする。そうすると周りから褒められる。外の世界で認められない部分をネット空間で居場所が作れると考える子がいる。スマートフォンがあればいいので。部屋や外ではなくて、ネット空間だと、暇さえあれば何でも自分の居場所を作れると思ってる子がいるようだ。

中西委員：スマートフォンが繋がれば、スーパーやデパートとかでもそこは自分の居場所になる。外で何故屯っているのかと思ったら、フリーWi-Fiがあるからそこでスマホやゲームをやっている。健全と言えるかはわからないが、昔のゲームセンターやボーリングとは違い、ネットに寄っている。

鈴木委員：地域によって小学生の居場所は異なると思う。公園の少ない地域では、学校の校庭が、多い地域では、公園が居場所となっていると思う。また、青少年会館や広場なども子どもたちの遊び場として活用されている。そういう場所があることが子どもたちの居場所となっていると思う。あとは塾とか習い事が居場所になっていると感じている。

加藤会長：公園とか何も無いひろば等の体を動かせる場所等を求める子が多いのか。

鈴木委員：最近だと放課後かまくらっ子に直接放課後向かう子もいるので、一つの居場所となっていると思う。

加藤会長：かまくらっ子は鎌倉全体で力を入れているので、この先も焦点になるかもしれない。子どもだけではなく、大人も居場所が必要。先程のアンケートの結果でも、多世代の居場所というのがあったが、全体で見て、鎌倉で居場所というのは、年寄り、大人、子どもたち、青年たちはどんな状況か、考えはあるか。

千代委員：高齢の方の案件が多いが、ここ数年は新型コロナの影響もあり、ひきこもってしまう高齢の方が多い。小規模ながらも色んな企画をして、そこに子どもたちを呼んで、多世代交流の場に行きたくないかと検討している。先日の大船まつりでは、2年ぶりの祭りで多くの人出があったが、こういうイベントを楽しみにしていた人々がいかに多かったかを痛切に感じた。小学生対象に昔あそびの伝達と世代間交流を目的にしたイベントを開催しているが、高齢者から独楽回しや竹トンボなど得意の遊びを習い、子どもたちの嬉々とした姿を見ることで高齢者にもいい影響があったようだ。大きな企画だと集まりづらいが、小さい企画だと集まりやすいので、小さな企画を多く行うことで多世代交流にもつながると思う。

加藤会長：今年は大船まつりも行われ、企画が具体化できそうに思う。林委員の話でもあったが、お祭りがあると外に出て、人とつながる。一方、スマートフォンも居場所との意見もあった。今後は双方の居場所を考える必要がある。実際に出会うような居場所もあるといい。どういった方向に向かうのがいいか。

#### ～令和4年度中高生アンケート調査の実施について説明～

加藤会長：アンケートの中身を見ていきたい。

東樹委員：文言の件で、Q3の「祖母、祖父の家など血縁者の家」というのは中学生には難しいので「親戚の家」などの方がわかりやすいのでは。「漫画」も平仮名の方がいい。Q8の「揃える」も平仮名の方がいい。

千代委員：Q8の「環境」「整備」も難しいのでは。平仮名やカタカナを使い、文章などでわかりやすく表せた方がいい。

甲斐委員：もし、スマートフォンが好きな子は買い物・読書・動画等全部入ると思う。スマートフォン依存の子が多い中で、回答となると、スマートフォン依存かそうでないかがわからないかも知れ

ない。「何をしていますか」と聞いて、「スマートフォン」なら「スマートフォンで何してるか」といったスマートフォンに特化した質問入れると依存かどうかともわかると思う。

河合委員：スマートフォンは学校では禁止だが、放課後等で連絡に使うため、貴重品で預かったりはしている。

田中委員：高校は授業の中で、一人1台のPCは高校1年生のみ、2、3年生は持ち込みで用いたりしている。

河合委員：中学生はiPadは市から支給され、一人1台持っている。

鈴木委員：七里が浜小学校では、スマートフォンの扱いについては、安全のためという理由で、保護者から持たせたいという要望があったときには、学校では使用しないという約束で持ってきている。Q7 選択肢にネットを増やすとアンケート結果がどうなるのか気になる。

加藤会長：選択肢については、市で検討していただく。

千代委員：中高生が居場所と聞いて、ネット上という答えが出せるのか気になる。聞き方が難しいのではないか。

石井委員：2点。居場所があるかという点について、自由回答でネットだと少ないが、選択肢にあれば選ぶ子はいると思う。Q10 からいきなり内面的な質問になっていて、いきなり自分を好きかという質問はびっくりするかも。入れるなら最後辺りがいいのでは。充実さや意欲、将来ときて最後に自分を好きかという質問は来ればいいのかもかもしれない。

林委員：同じく違和感があった。「居場所とは」と回答していたところでいきなり方向性が変わってきた。Q10 までの内容との関係性が見えない。違うものなんだというコメントを入れるか、あるいはこのQ10からの質問は全体の最初に持ってきて、その後居場所について聞くというようにすると良いのでは。子ども達にもアンケートを取る意義を教えた方がいい。

田中委員：実際にやる立場で確認したい。Q7の11は抜けか。今回のアンケートはスマホやタブレットでの回答になるので、「○を書いて」ではなく「チェックを付けて」等に文言の整理を。アンケートの原稿もらった時に他の3校にも見ていただいたので、その意見は検討していただきたい。前提として、鎌倉市内の高校に通う学生は鎌倉市在住だけではない。

青少年課：鎌倉に関わっている方を対象にしたいので、在住・在学で構わない。

田中委員：このアンケートの先にどんな青写真があるのか。他の校長先生からも意見があったので、今後教えて欲しい。

加藤会長：皆さんの意見を大事にしたいということ盛り込むといい。Q13の夢については「ある・なし」なので、具体的に記述欄あってもいいと思う。

河合委員：ジュニアリーダーズクラブに関して、学校活動外のことになるが、自己肯定感やコミュニケーション能力等高める点に関しては、教育的な効果が見込めるいい活動だと思う。学校外なので、内容把握ができない分、中学校に報告やご連絡等もらえれば紹介等できると思う。

千代委員：ジュニアリーダーについて、どういう形で募集しているのかは民生委員としても興味ある。教えていただければ色々な関わり方ができると思う。また、高齢者との多世代交流の件で、SNS関係は子どもの方が詳しいので、子ども達に高齢者に向けて先生をしてもらうということも考えている。子どもから、「やってもいい」との声もあった。子どもたちの自己肯定感にもつながると思うので期待しているところ。

加藤会長：いままで子どもたちは保護する存在だったが、先生として動いてもらうところは子どもの存在感が高まる。新しい方向だと思う。

東樹委員：東日本大震災の関係で、復興支援に被災地に行ったときに、中学生が暇そうにしていた。その中の1人でボイスパーカッションが得意な子がいて、披露してもらったら、高齢者にとっても受けたことがある。そういう役割、出番、機会を、いかに作る環境が整えられるかが重要だと思う。そういう意味では防災は一つ大きなテーマとして、多世代で繋がれる、地域としても重要視できるポイント、テーマではないかと思う。また、高校生で玄海というグループがいる。彼らは地域の町内会とかも繋がりながら、防災のまち歩きなどの取り組みをしている。鎌倉にある冒険遊び場等用いて、昨年7,000人程度の利用があり、そのうち半数程度が小中学生であった。普段できない火おこし等行って、ジュニアリーダーなどが活用することで子どもたちと繋がりができるといいと思う。

青少年課：今後のスケジュールについて、今年度は3回実施を予定しており、次回の第2回はアンケートの報告や、視察の報告等を9月10月頃に、第3回は1月頃を予定している。議事概要と併せて、アンケート内容については共有させていただく。

以上